

取扱説明書

2020年9月

各種パーツ名

- ・煙突(笠あり、両端フランジ)
- ・焼却炉本体(一次燃焼室)
- ・再燃焼室(二次燃焼室)
- ・灯油バーナー
- ・灯油タンク
- ・送風機(上部、下部)
- ・タイマー式制御装置
- ・投入扉(ワンバッチ式)
- ・空気調整バルブ
- ・耐火ロストル
- ・その他内部パーツ
(遮蔽板、甲冑、吸い込み煙突)



製造元:アナログシステム株式会社

〒431-0404 静岡県湖西市太田 1045-1

TEL : 053-578-0638 FAX : 053-578-3402

E-mail : info@analogsystem.co.jp

URL : <https://analogsystem.co.jp/>

1. 仕様

600AB/600TR 共通

火床面積	0.49(m ²)
火焼容積	490(ℓ)
焼却能力	29.16(kg/h) ※1
総重量	約 1,250(kg)
高さ	4,560(mm)
横	1,550(mm)
奥行	1,100(mm)
据付面積	約 1.7(m ²) ※2
投入口(縦×横)	1,200×400(mm)
上部扉開放時	650×400(mm)
消費電力	送風機 0.25kW/台
灯油バーナー	約 5(ℓ/h)
灯油タンク	最大 90(ℓ)
電源	AC100V(約 1.5m コード)
温度センサー	-50°C～1,100°C
制御装置	自動停止型タイマー
タイマー設定	1～12(h)
追加煙突	914(mm/本) ※3

※1 焼却能力は、一般雑芥発熱量(4,200kcal/kg)をもとに算出。

別紙「焼却能力算定方法」にて計算式、定位発熱量の記載があります。

※2 据付面積約 1.7 m²でも消防局長へ届出の必要がある場合がございます。

※3 煙突は全てアルマー加工のため、耐熱性・腐食性に優れています。

2. 初期点検

最初に外側を点検し、へこみや塗料の塗り忘れなどが点検してください。
もし、何らかの傷がみられる場合には、送風機や灯油バーナー、制御装置にもその影響が及んでいないか、傷のある部分近くの内部状態をよく確認してください。
動作の異常があるようであれば、購入元にご連絡下さい。
電氣的又は、機械的な異常がないか燃焼開始前に十分チェックしてください。

＜主なチェック項目＞

- ① 制御装置の電源を入れ、上部、下部送風機、灯油バーナーが正常に作動しているかチェックします。
- ② 一時燃焼室に十分な送風が出ているか、再燃焼室内に灯油バーナーが着火しているか、煙突上部に強制的に上昇気流が起きているか、チェックします。
- ③ 温度表示器や温度センサーが正常かチェックします。

3. 設置

焼却炉を大切に使用するためには、正しい設置が必要です。
弊社スタッフが御社まで設置にお伺いする場合は、設置・焼却実演・仕様説明を行った上で、下記事項全てのアドバイスをさせていただきます。
周りに燃焼物が多いと火事の原因にもなりますし、水平な場所以外に設置すると煙突の消耗が激しくなり、煙の出る原因になりやすいです。
設置場所の消防署へお問い合わせいただき、下記のことをご確認ください。

- ① 焼却炉の左右、後方 2.0m以上
- ② 上方 2.5m以上
- ③ 前方 3.0m以上

焼却炉の設置に関する保有距離について条例があるかどうかをご確認ください。
小型焼却炉の法律 (https://analogsystem.co.jp/law_incinerator/) をご参照ください。

【重要】

水平な場所に設置することは非常に大切です。
焼却炉を設置後、本体が水平かどうかではなく、煙突が垂直になっているか最終的にご確認ください。
コンクリートで基礎を作る際は、面全体がなるべく水平になるように心掛けてください。
アンカーボルトは後から穴を開けて、施工してください。
灯油タンクのアンカーボルトも忘れずに施工してください。

焼却炉の設置、取り付けに関しては別紙にて、写真、図面とあわせて記載がございます。そちらをご参照ください。

下記に注意事項のみ記載致します。

※設置に関する注意事項※

① 設置をする際はヘルメット、軍手、革手袋など安全対策を行い、十分注意して行ってください。

② 制御装置など電気配線を行う場合は、雨天時は行わずに、ブレーカーが OFF になっていることをご確認の上、注意して行ってください。

制御装置の配線は下記の通りをお願い致します。※電動工具は使用せずにプラスドライバーでしっかり固定してください。

灯油バーナー：黒色(ケース右側のトグルスイッチに接続)、白赤(1の左側に重ねて接続)、緑色(1の右側に接続)

下部送風機：2に配線(白黒順不同)

上部送風機：3に配線(白黒順不同)

制御装置内の温度計が異常表示になっている場合、温度センサーに(+ -)の線が緩んでいることがあります。

もう一度締め直してからセンサーの異常がないかご確認をお願い致します。

③ 制御装置に異常がなく、灯油バーナーから炎が出てこない場合、下記の通りにご対応をお願いします。

灯油バーナーの赤色のカバーを開け、右側のポンプに付いているノブを回してエア抜きを行ってください。細いビニールホースから灯油が噴き出したらエア抜き完成です。

もし上記のやり方がわからない場合は、灯油バーナーが固定されている3本の六角ボルトを緩めて、灯油バーナーを再燃焼室から抜き、灯油タンクよりも下で燃焼テストを行ってください。圧力で自動的にエア抜きされます。

火傷や灯油が皮膚にかからないように十分ご注意ください。

④ 制御装置に異常がなく、本体内部に送風が出ていない(弱い)場合、下記の通りにご対応をお願いします。

送風機が正常に作動しているかご確認ください。

送風機が正常に作動している場合、送風機カバーの向きをご確認いただき、送風機の空気流入口周辺が狭くなっていたり、十分な開口がない場合、送風が微流になる場合がございます。

または、本体内部の空気噴き出し口が詰まっている場合、そこだけ出なかったりします。細長い針金のようなもので、ごみを掻き出してください。

4. 焼却

初めて焼却炉に火を入れる時または1か月以上使用していなかった時は、炉内耐火キャストに多くの水分が含まれています。

最初にプラスチックやビニール類は入れずに、紙・木材のみを入れて燃焼を始めてください。

炉内耐火キャストが黒色から白色に変わったら、水分が全て蒸発した印です。

(水分が全て蒸発する目安は 400℃で1時間、500℃以上で30分です。最初の 30 分以内に 800℃以上にすると急激な温度変化により、耐火キャストが傷みやすくなるためご注意ください。)

耐火キャストが半分以上白くなったらプラスチック・ビニール類を燃やし始めても大丈夫です。

焼却手順

- ① 制御装置に異常がなく、全ての機器が正常に作動しているかご確認ください。
灯油バーナーが燃焼しているかご確認ください。
- ② 紙・段ボール・木材など炎が多く出るものを一次燃焼室内の約7～8割程度入れます。
- ③ ライターやバーナーなどで燃焼物に火をつけてください。
中には廃油などを燃焼物にかけたり、湿らせて燃焼を助ける方もいます。
その際には十分注意して火をつけるようにお願いします。
- ④ 下部送風機の上部に空気調整バルブがあり、こちらを開放することで炉内下方向に空気が流入して、より燃焼を助けます。
- ⑤ 扉を閉めても炎が消えないことをご確認ください。
(目安は約 500℃以上)
- ⑥ 炉内耐火キャストが白色の状態になったら煙が多く出やすい物(プラスチック・ビニール・ゴムなど)を投入してください。
【重要】④で開放した空気調整バルブを閉めます。
- ⑦ 炉内温度が 800℃以上になるまでは灯油バーナーを ON の状態にしてください。
ON/OFF スイッチは制御装置右側のトグルスイッチを使用してください。
- ⑧ 約2時間程度で温度は下がってきます。
全ての燃焼物が燃え終わったら②に戻って繰り返してください。

5. 保守

消耗品は下記の通りです。

- ・灯油バーナー:異常だと思ったらすぐに再燃焼室から灯油バーナーを抜いてください。
- ・熱電対(温度センサー):温度が高い(1,100℃以上)とセンサー部が溶けてしまう場合がございます。
- ・耐火ロストル:常に同じ方向で焼却していると一方方向へ変形します。変形した場合は反対向きにすると元に戻ります。穴が空いて使えなくなったら代理店または製造元にお買い求めください。
- ・上下送風機:弊社での修理が困難なため新品をお買い求めください。

必要な保守点検

- ① 炉内部にあるパーツの破損がないか目視でお確かめください。(毎月)
- ② 炉外側の耐熱塗料をこまめに耐熱スプレーなどで保護してください。ホームセンターにて1,000円程度で販売しています。(約半年に一度)
- ③ 炉内耐火キャストが脱落、薄くなった場合は、専用の補修材を使って補修してください。(その都度)
- ④ 有償オーバーホールをする場合は、販売店または製造元にご連絡ください。(約3年に一度推奨)

6. 保証

- ① 部品、修理代は期間内なら消耗部品を除いて何度でも無償で修理致します。基本的には新品への交換ではなく、無償修理とさせていただきます。
- ② 部品などを郵送で送る場合は送料をご負担いただきます。
- ③ 弊社担当者が現地に修理・部品交換などでお伺いする場合は、ガソリン代・高速料金などの交通費をご負担いただきます。
- ④ 焼却炉本体を弊社の工場にて修理する場合、往復の運賃をご負担いただきます。
- ⑤ 温度計のセンサー部の熱伝対及びロストル、乾電池、バーナー、送風機につきましては消耗品の為、対象外でございます。
- ⑥ 焼却能力以上で燃焼されているのが判明した場合、無償修理保証の対象外とさせていただきます。
- ⑦ 火災・台風・津波、その他自然災害での故障・破損も無償修理の対象外とさせていただきます。

7. 行政への対応

こちらの焼却炉は全国どこでも届出・許可が不要でおける焼却炉ではございません。一部自治体には独自の条例が設けられているところがございます。

そのため、最初に設置する場合は、代理店または製造元が自治体へ条例の有無を確認させていただきます。

問題なければ設置・使用の流れになりますが、万が一、条例がある場合は設置をお断りする場合がございます。

ご了承ください。

【重要】

焼却炉の設置場所住所を変更する場合、変更・移動前に代理店または製造元にご確認ください。

設置後、行政への対応で多い事例が下記の通りです。

- ① 塩化ビニールなどの焼却により黒煙、臭いが多く出たため、近隣住民からの苦情による通報です。

最近では様々な化合物が多く存在するため、お客様の判断で煙が多く出るような物は燃やさないようにしてください。

また、燃やして臭い物も苦情の原因になりやすいため、控えていただくか、少量ずつの焼却をお願いします。

- ② 扉を開けたまま焼却すると冷たい外気が炉内に入り温度が急激に下がります。そのため、煙の出やすい状態になり、結果として苦情になる場合がございます。

また、炉内温度が 800℃以上になっているため、大変危険です。

ワンバッチ式の炉は燃やし終わりまで扉を開けないようにお願い致します。

設置前・後にかかわらず、行政からの注意・指導・勧告などがあった場合はすぐに代理店または製造元にご連絡ください。

その際に、燃やしている物や量を確認させていただく場合がございます。

本取扱説明書は予告なく変更する場合がございます。

最新の取扱説明書は製造元ホームページにて随時更新しています。

ご希望の方は下記 URL へアクセスし、購入機種の取扱説明書をダウンロードまたは印刷をお願いします。

<https://analogsystem.co.jp/>

ご不明な点は代理店または製造元にお問い合わせください。